

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	令和6年度河川研究会現場研修 (CPD番号6-5)
主催	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部河川研究会
日時	2024年10月11日(金) 10:30 ~ 15:00
場所	(1) 釜石市 (2) 大槌町
参加人数等	会員: 15人 説明: 岩手県沿岸広域振興局土木部職員、釜石市職員

活動内容

1. 事業概要 釜石大槌圏域流域治水プロジェクト (1) 大松砂防堰堤改築(目的)築造63年の石積堰堤へコンクリート腹付けし堰堤の補強。土石流、流木を捕捉し、流域を守る。(事業)砂防施設等緊急改築事業(事業費)約2.16億円(事業期間)R3-R6(諸元)堤長93.3m、堤高11.5m、コンクリート3,309m³ (2) 天神の沢(4)砂防(目的)土石流、流木を捕捉し、市街地を守る。(事業)大規模特定砂防事業(事業費)約4億円(事業期間)R2-R6(諸元)計画堆砂1,393m³、堤長31.4m、堤高7.5m、コンクリート911m³ (3) 汐立雨水ポンプ場(目的)流域からの雨水排水し市街地浸水被害軽減(事業)雨水ポンプ施設建設事業(事業費)約43億円(事業期間)H26-R2(諸元)排水面積6,292ha、大ポンプ(口径1,500mm排出量315m³/分)×2台、小ポンプ(口径500mm排出量35m³/分)×2台、最大700m³/分 (4) 尾崎白浜の沢(9)砂防堰堤(目的)R1台風第19号土石流被害軽減(事業)砂防激甚災害対策特別緊急事業(事業費)約4.5億円(事業期間)R2-R6(諸元)計画堆砂26,181m³、堤長104m、堤高14m、コンクリート6,550m³ (5) 大槌川大ケロ災害復旧(目的)R1台風第19号被災復旧(事業)災害復旧事業(事業期間)R1-R2(諸元)事業区間186.2m、護岸工、築堤工 ☆従前からあった護床ブロックは再利用すべき。撤去しないこと。

2. 現場研修(主な質疑応答)

- (1) 大松砂防①堰堤のボーリング調査は行ったのか?→堤体断面方向に2本実施。②水通し部の嵩上げの検討は行わなかったのか? →既設堰堤の改築事業(補修)であることから嵩上げは行わないこととした等。
- (2) 天神の沢(4)砂防) ①除石の方法は?→堤体の表側から実施。②鋼製スリットの幅の決め方は?→上流からの石の径を考慮して決定等。



(1) 大松砂防堰堤:釜石市



(2) 天神の沢(4):釜石市

- (3) 汐立ポンプ場 ①トラブル時対応用の予備ポンプは?→なし。②大ポンプ稼働の頻度は?→年3回程度。③令和元年台風で浸水あったがそれ以降浸水被害は?→浸水被害無し、効果発現している等。
- (4) 尾崎白浜(9)砂防堰堤 ①鋼製スリットはサビ発生しているが?→サビを考慮した鋼材の厚さ。②鋼製スリットの間隔は?→転石、流木を考慮し決定等。
- (5) 大槌川大ケロ災害復旧 ①現場の護床ブロックはどこから持ってきたのか?→東日本大震災津波復旧・復興の現場から持ってきた。②当該区間の河川改修で落差工撤去したとのことであるが、河床勾配は従前より急になったのでは?→上下流の現況河床勾配は勘案し、従前より緩い勾配とした等。



(3) 汐立ポンプ場:釜石市



(4) 尾崎白浜(9)砂防堰堤:釜石市



(5) 大槌川大ケロ災害復旧:大槌町

※かっこ書きの数字は、砂防堰堤のシリーズの枝番を示す

(河川研究会代表 高橋 記)

